

## シェイクスピアの作品群における 迂言的 do の歴史的研究 III

～ *Yes-no question* と *wh question* における *do-periphrasis* について : D. Stein の '*Phonotactically motivated strategy*' の検証を中心に～

### Abstract

古 庄 信

As for *do-periphrasis*, D. Stein (1990) advances a new theory of “phonotactically motivated strategy,” in which undesired word final consonant clusters are avoided, and some given verbs are inclined to be associated with ‘do,’ especially in the present tense questions with ‘thou.’ In this way he says that *do-periphrasis* originally began with ‘thou’ and was generalized in other tense/person categories. According to his analysis and the data I collected this time, I was partly able to testify his theory. But still it seems doubtful to say *do-periphrasis* began originally with ‘thou,’ because in some more categories ‘you’ overwhelms ‘thou.’

### はじめに

前回の疑問詞をもつ special question (wh-question)<sup>(1)</sup> に続いて、今回は *yes-no question* における do の分布状況を観察することによって、do 迂言化 (*periphrasis*) の要因は何かという問題点についてさらに近づいた考察を試みたい。

前回の special question における do の考察では、分析のためのフィルターとして wh の種類の違いに注目し、同じ wh-question でも wh の種類によって do の現れ方に若干の違いが見られる、という結果を得た。またその他としては、Ellegård のいう自動詞・他動詞<sup>(3)</sup> というフィルターによる分析も

行ったが、これはあまり明確な結果は得られなかったように思われる。

では今回の yes-no question の場合、データ分析においてどのようなフィルターが使用可能であろうか。ここでは wh ほどのはっきりとした question marker はなく、Do+S+V+X? または V+S+X~? のように S、V、X という関係があるのみである。

ところで、D. Stein<sup>(4)</sup> は、2 人称単数 thou が疑問文において迂言形 (dost +thou~?) と共起するようになった原因は、S-type の疑問文中の動詞の中には、disput(e)dst thou のように thou が後に続くことを嫌う語末音 (“undesired word final consonant clusters”)<sup>(5)</sup> をもつものがあり、その結果 do-support により V-S という倒置を避けるようになったのではないか、そして do 迂言化は thou から you へ、さらに他の人称へ一般化していったのではないか、という ‘phonotactically motivated strategy’<sup>(6)</sup> を提唱している。

Stein の道具立ては、精密さを極め、その詳細なデータ分析から上記の結論を導いた点で、かなり説得力があるが、その結論が果たして正当なものか否かについては、疑問の余地も残るように思われる。しかし Stein はコーパスとして、筆者と同様 Shakespeare を用い、同研究の先駆者 V. Salmon<sup>(7)</sup> のように、コーパスとしての Shakespeare の有効性も同時に主張している点では評価されるだろう。そこで、Stein 説の正当性を検証する意味においても、彼の道具立てによる動詞とその主語の分析方法をここで応用してみることにについては、十分にその価値があるように思われる。

そこで今回は前回と同様、Spevack<sup>(9)</sup> のコンコーダンスを使用することで、*The Two Noble Kinsmen, Sir Thomas More, Sonnets* その他の詩を除く 37<sup>(10)</sup> 作品の散文から Yes-no question の用例を収集しながら、Stein に従って<sup>(11)</sup> 動詞の語末音 (stem ending) を、特に問題となる /ow/ (know, show など)、/voc/ (see, say など)、/t/ (put など)、/d/ (bid など)、/k/ (break など) その他に分類し、それらの stem ending と主語の人称・数がどのような分布をなすかについて調べてみた。コンコーダンスによると Do-type の yes-no question と共起する動詞の種類は 103 種類に及んでいる。

さらにデータは基本的には、do-type の用例と do-type で用いられた動詞の S-type の用例のみを収集した。しかし、実際の S-type の用例数は、do タイプに現れない用例数を考慮するならば、ここで収集した数より当然大であろうことを、あらかじめ断っておかねばならない。

また、本文で述べることになる動詞 have(/v/) については、今回の調査に関する限り、散文における do-type の例は皆無である。Stein はこの点についての言及が不明瞭であるように思われる。その他、S-type のみに現れる動詞は無数に抽出することもできようが、より正確なデータ収集は今後の課題として本題に入っていきたい。

この分析の結果、前回同様、どの動詞の場合も、主語は 2 人称 you に圧倒的に多く集中しており、必ずしも Stein の分析とは一致しないことがわかった。詳細は本文中で述べることになる。

これまでと同様、コーパスの作品名、用例箇所については Spevack に従って作品名を省略するので、省略名ここでは列挙しない。また今回は、do タイプの S タイプに対する比率 (%) を Stein にしたがって DP 値と呼ぶことにする。

1. 各 stem ending と主語の人称の分布状況<sup>(13)</sup>

1.1 stem ending/ow/ の場合 ( ) 内の数字は否定疑問文の用例数、s, p は各々 singular, plural を示す。

Table 1. 1

/ow/		Do					Dost 2s	Does 3s	Doth 3s	Did				-st 2s	Totl Do/S
		1s	1p	2s	2p	3p				1s	2s	3s	p		
know	D			18		1	6								25
	S	1	2	9				(1)							13
go	D											1			1
	S														0
owe	D											1			1
	S														0
grow	D					1									1
	S														0
follow	D			1											1
	S							1							1
show	D											1			1
	S														0
Total	D			19	1	1	6			1	1	1			30
	S	1	1	(1)9				1	(1)						15

Table 1.1に見られるように、/ow/ の stem ending を持つ動詞は know, go, owe, grow, follow, show の6種類。このうち最も使用頻度の高い know については、2人称・現在 you を主語とする例が最も多く、do タイプ：18 例、S タイプ：9 例 (DP 値：66.7%)。また thou が主語の例については、do タイプ：6 例、S タイプ：0 例 (DP 値：100%)。その他の動詞については do, S 両タイプとも使用頻度が低く、DP 値については何ともいえないが、follow 以外はすべて do-type のみである。

/ow/ 全体の合計における DP 値は、know の場合とほぼ同じ66.7%となる。(用例の箇所については本文末の FS を参照。)

## 1.2 stem ending /voc/ の場合

Table 1. 2

/voc/		Do					Dost 2s	Does 3s	Doth 3s	Did				-st pl 2s	Totl Do/S
		1s	1p	2s	2p	3p				1s	2s	3s	pl		
see	D			5							8	2		6	21/2
	S			2			(3)								
say	D									3	1	1		2	7/7
	S	1		6			7			5	(1)	2			
play				1											1/0
stay									1						1/0
die										1					1/0
deny						1									1/0
lie								1							1/0
study				1											1/0
pity				1											1/0
carry						1									1/0
busy				1											1/0
bandy				1											1/0
squiny									1						1/0
ensue									1						1/0
Total	D			10		2	0	1	3	4	9	3	0	8	40
	S	2	2	8			7	(3)		5	(1)	2			26

Table 1.2のように、see から ensue まで14種類の動詞が使われ、ここで最も頻度が高く、かつ対照的な動詞の例は、see と say である。

すなわち see については、2 人称単数・現在 you の場合、do : 5 例、S : 2 例 (DP 値 : 71.4%)。また、thou + 現在形の場合、do : 0 例、S : 3 例 (DP 値 : 0%)。さらに you + 過去形では do : 8 例、S : 0 例 (DP 値 : 100%) と、thou + 過去形では do : 6 例、S : 0 例 (DP 値 : 100%) と、thou + 現在を除けば、do-type 優勢である。

これに対して、say については、現在形、過去形とも逆に S-type が優勢である。/voc/ 全体については、you + 現在形の場合 DP 値 : 55.6%、thou + 現在形の DP 値 : 0% となっている。

(用例箇所については、本文末 FS を参照)

### 1.3 stem ending /t/ の場合

Table 1. 3

/t/	Do					Dost 2s	Does 3s	th 3s	Did				-st 2s	Totl Do/S
	1s	1p	2s	2p	3p				1s	2s	3s	pl		
put			1			1								2/0
set			1							1				2/0
write											1			1/0
sweat				1										1/0
cost												1		1/0
jest			1											1/0
note			3										1	4/0
bite			2											2/0
paint				1										1/0
consist							1							1/0
detest						1								1/0
suspect						2								2/0
hate						1								1/0
prate						1								1/0
content								1						1/0
Total			8	1	1	6	1	1		1	1	1	1	22/0

stem ending /t/ をもつ動詞については Table 1.3 のように、put, set, write, sweat, educate, cost, jest, note, bite, paint, consist, detest, suspect, hate, prate, content の16種類が do と共起している。これらの動詞と共起

する頻度の最も高いのは、やはり 2 人称 you と thou であるが、do が特定の動詞と集中的に共起する例は見られない。また、S タイプの例も全く見られない。(用例箇所は本文末 FS 参照。)

#### 1.4 stem ending/d/ の場合

Table 1.4 からわかるとおり、stem ending/d/ の動詞と do の共起する動詞の種類は bid から feed まで 13 種類と豊富だが、個々の例は極めて少ない。2 人称 you でも /d/ 全体で、かろうじて 5 例。thou その他は皆無に近い。また S タイプの例も見られない。(用例箇所については、本文末 FS を参照。)

Table 1.4

/d/	Do					Dost 2s	Does 3s	Doth 3s	Did					-st 2s	Totl Do/S
	1s	1p	2s	2p	3p				1s	2s	3s	pl	2s		
bid									1						1/0
understand			1			1									2/0
intend			1												1/0
bleed		1													1/0
send											1				1/0
need					1										1/0
find										1					1/0
behold			1												1/0
yield			1												1/0
hold					1										1/0
mend								1							1/0
feed								1							1/0
Total	0	1	4	0	2	1		2	1	1	1	0	0		12/0

#### 1.5 stem ending /k/ の場合

Table 1.5 で明らかなように、動詞 think については、2 人称・現在 you と thou はこれまでの場合と同様、高い頻度を示している。you の場合、do : 13 例、S : 10 例 (DP 値 : 56.5%)、thou の場合、do : 6 例、S : 5 例 (DP 値 : 54.5%)。また /k/ 全体では you の場合、do : 18 例、S : 16 例 (DP 値

52.9%)、thou の場合、do : 10例、S : 7 例 (DP 値58.8%) という数値になっている。

その他、take, speak, make, talk など一般的に頻度の高いと思われる動詞については、少なくとも散文の yes-no question では、この表に表されたように、予想外に頻度の低いことがわかる。また例数は少ないが、全体として do タイプの方が優勢な like, take, make などのグループに対して、speak, talk など、S タイプの方がやや優勢なグループの二手に分かれているように思われる。(用例箇所は本文末 FS を参照。)

Table 1. 5

/k/	Do					Dost	Does	Doth	Did				-st	Totl Do/S	
	1s	1p	2s	2p	3p	2s	3s	3s	1s	2s	3s	p1	2s		
pick	1													1/0	
like	2					1									3/0
take <sup>D</sup>	1					1					1				3/1
S	1														
pluck	1													1/0	
speak <sup>D</sup>	1														1/6
S	1		2			1				1	(1)	1			
break	1													1/0	
make	1					1	2		1					5/0	
think <sup>D</sup>	13					6					1				20
S	10					5							1	16	
look <sup>D</sup>	1		1											2/1	
S			1												
mark	2										1				3/0
work	1													1/0	
talk <sup>D</sup>	1													1/3	
S	2					1									
lack						1					1				2/0
Total <sup>D</sup>	1	2	19		1	10	2	2	1	3	2	0	1	44	
S	1		16			7				1	(1)	1	1	27	

## 1.6 stem ending/m/, /n/ の場合

Table 1.6 に見られるように stem ending/m/, /n/ をもつ動詞の中では、

come については、かろうじて、Sタイプ優勢という状況がわかるが、その他の動詞についてはデータ不足で何ともいえない。(用例箇所は本文末 FS を参照。)

Table 1.6

/m, n/	Do			Dost			Does			Doth			Did			-st		Totl Do/S
	1s	1p	2s	2p	3p	2 sg	3 sg	3 sg	3 sg	1s	2s	3s	pl	2s				
come <sup>D</sup> S			1			1	2					1						2/5
dream			2									1						1/0
become												1						1/0
begin <sup>D</sup> S												1						1/1
mean <sup>D</sup> S			1				1											2/1
run					1											1		1/0
shine												1						1/0

## 1.7 stem ending /r/ の場合

Table 1.7

/r/	Do			Dost			Does			Doth			Did			-st		Totl Do/S
	1s	1p	2s	2p	3p	2 sg	3 sg	3 sg	3 sg	1s	2s	3s	pl	2s				
hear <sup>D</sup> S			13						10			6			4			33 4
remember			1			2						1						
cure			3									1						3/0
offer															1			1/0
desire															1			1/0
wear						1												1/0
roar						1												1/0
alter									1									1/0
Total <sup>D</sup> S			16			2			11			7			6			42 4
			1			2						1						

Table 1.7に見られるように、hear においてのみ do、S 両タイプが見られ、あとの7種類の動詞についてはすべて do タイプのみ。hear の2人称 you 現在の場合、圧倒的に do タイプが優勢であるのに (DP 値: 94.1%)、thou については S タイプでわずかに2例見られるのみである。過去形については you, thou 両方で do タイプ優勢であるといえる。3人称単数・現在



について注目すれば、他の場合と異なり do タイプが10例も見られる。(用例の箇所は本文末 FS を参照。)

### 1.8 stem ending /l/ の場合

Table 1.8

/l/	1s	1p	2s	2p	3p	Dost 2s	Does 3s	Doth 3s	1s	2s	3s	p	-st 2s	Totl Do/S
call <sup>D</sup>			1			1		1	1					4
call <sup>S</sup>			6			1	1							8
fall													1	1/0
quarrel			1											1/0
smell			1											1/0
thrill								1						1/0
feel								(1)						1/0
tell									2		1			3/0
Total <sup>D</sup>			4			1		2 (1)	3		1		1	12
Total <sup>S</sup>			6			1	1							8

Table 1.8に見られるように、ここでは stem ending /l/ をもつ動詞は、callを除けば、他はすべて散発的に do タイプと共に起する。2 人称・現在 thou については、call でわずかに do/S タイプが1例ずつ。you では DP 値 40.0%となっている。また全体での DP 値は60.0%。(用例の引用箇所については本文末の FS を参照。)

### 1.9 stem ending /p/, /ŋ/, /son/, /th/, /ʃ/ の場合

Table 1.9

	1s	1p	2s	2p	3p	Dost 2s	Does 3s	Doth 3s	1s	2s	3s	p	-st 2s	Totl Do/S
/p/ sleep			1											1/0
/ŋ/ belong											1			1/0
/son/ question meddle			1											1/0 1/0
/ʃ/ wash			1											1/0

これらの stem ending をもつ動詞の例は各 1 例ずつと極めて少なく、ここでは参考までに数値をあげるにとどめる。(用例の引用箇所については本文末の FS を参照。)

### 1.10 stem ending /f/, /s/, /z/ の場合

Table 1.10

	1s	1p	Do 2s	2p	3p	Dost 2s	Does 3s	Doth 3s	1s	2s	3s	p	-st 2s	Totl Do/S
/f/ triumph	2													2/0
/s/ pierce kiss curse	1   1													1/0 1/0 1/0
/z/ use please	1  1  1													2/0 2/0

1.9と同様、例数が極めて少なく、参考として例数をあげるにとどめる。  
(用例の引用箇所については本文末のFSを参照。)

### 1.11 /v/ の場合

Table 1.11

/v/	Do					Dost	Does	Doth	Did				-st	Total Do/S
	1s	1p	2s	2p	3p	2s	3s	3s	1s	2s	3s	p	2s	
perceive	1								2				1	4/0
leave											3			3/0
serve			1					1						2/0
give													1	1/0
believe				1										1/0
live						1								1/0
deserve								1						1/0
* have	D													0
S			3 (2)	14		7	4	9 (5)			1		1	39
Total	D	1		1	1	1	0	2		2	3		2	13
S		0	3 (2)	14	0	7	4	9 (5)		0	1		1	39

最後に /v/ について見ると、この場合も各動詞の例数が極めて少なくデータとしては参考にならないが、全体の分布状況から現在形より、過去形に若

干多く do タイプが発生しているように思われる。また S タイプにしか現れない have については、2 人称現在の you 14 例、thou が 7 例。3 人称 has, hath も 13 例と thou より多く発生している。

## 2. 2 人称と stem ending との関係

このように 1.1 から 1.11 までで明らかなことは、どの stem ending グループにおいても do, S 両タイプが発生しているのは、圧倒的に 2 人称・現在の you と thou においてである。そこで、これまで集めた stem ending 別の各動詞の中で、数値的に有効な 2 人称における DP 値に特に注目しながら、それらの関係をさらに詳細に分析してみるならば、次のとおりである。( /p/, /ŋ/, /son/, /th/, /ʃ/, /f/, /s/, /z/ の各項目について、また 1 人称・現在、2 人称・3 人称・現在の単・複数および各人称・過去については、数値的に極めて低いので、ここでは除外する。)

Table 2.1

		ow	voc	t	d	k	m/n	r	l	v	Total
2s	DP 値	66.7	55.6	100	100	54.3	40.0	94.1	40.0	6.7	59.0
	D/S	19/9	10/8	6/0	5/0	18/16	2/3	22/1	5/6	1/14	82/57
2s-st	DP 値	100	(0)	100	--	58.8	(0)	(50)	(50)	12.5	51.9
	D/S	6/0	0/7	6/0	1/0	10/7	0/1	2/2	1/1	1/7	27/25

Table 2.1 の 2 人称・現在 you (2s) と thou (2s-st) の各 stem-ending における数値の違いをさらに明確なものにするために、グラフ化してみるならば、次のとおりである。

Figure 2.1 2 人称・現在 you の DP 値

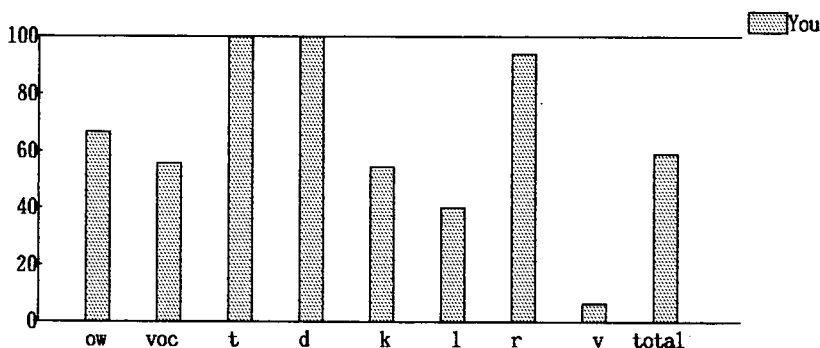


Figure 2.2 2人称・現在thouのDP値

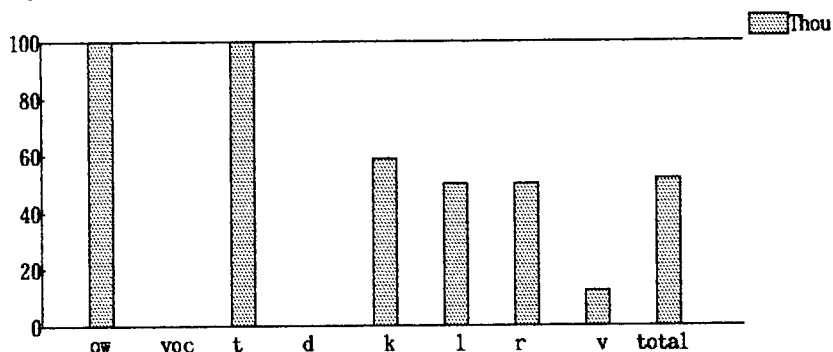
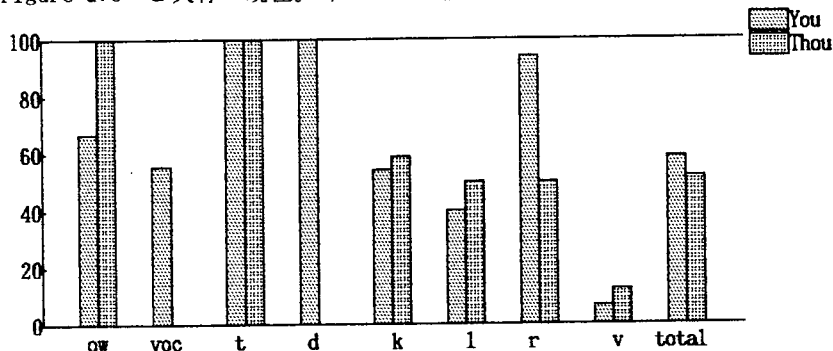


Figure 2.1, 2.2を各々見ると明らかなように、2人称・現在 you の DP 値は /t/, /d/, /r/ の区域で非常に高い値を示し、/ow/, /voc/, /k/, /l/ が後に続いている。これに対して2人称・現在 thou の場合は /t/ については you と同じく非常に高い値を示しているが、データが示すように、/voc/, /d/ の値がゼロである。また、/ow/ についても you の場合よりも高い値を示しているが、/r/ については you の場合に比べると、かなり低い、という状況である。このような両者の分布状況を類似していると見るか、否かにについては、次の Figure 2.3 で両者を見比べた場合、見解が異なるかもしれない。しかし、相対的に見た場合、you の方が thou に比べ、わずかながら、全体に DP 値が高いということは、データの違い（特に total 値の違い）からも明らかなように思われる。

Figure 2.3 2人称・現在you/thouのDP値の比較



### 3. Wh-question におけるデータ再分析

一方、前回の wh-question におけるデータの中で 2 人称・現在の you と thou の部分を、Stein (1990) に従って再分析するならば次のようになる。

(用例箇所は全て前回の該当箇所を参照されたい。)

#### 3.1 O-question (What) の場合

Table 3. 1 (表内の 2s, 2st は各々 you, thou を示す)

		do-type		s-type		2s:pr Do/S DP 値	2st:pr Do/S DP 値
		2s	2st	2s	2st		
/ow/	know	1	2			1/0	2/0
/voc/	say	1		22	17		
	see	3			1		
	do		1	2	1		
	spy	1					
	Total	5	1	24	19	5/24 17.2%	1/19 5.0%
/t/	enact					0/0	0/0
/d/	read					1/0	0/0
/k/	think	4	1	11	2		
	talk	1			1		
	make			1			
	Total	5	1	12	3	5/12 29.4	1/3 25.0
/l/	call	3	1	4			
	tell				1		
	ail			1			
	Total	3	1	5	1	3/5 37.5	1/1 -
/m/	seem				1	1/0	1/0
	esteem	1				- %	- %
/n/	mean					2/4 33.3	2/2 -
		2	2	4	2		
/v/	have			4	5		
	serve			1			
	Total			5	5	0/5 (100)	0/5 (100)
/r/	hear					0/1	0
/z/	lose						
/g/	dig		1				
/s/	profe		1				
	Total	18	9	51	31	25.0	22.5

## 3.2 A-question の場合

### 3.2.1 when, where, why の場合

Table 3.2.1

		do-type		S-type		2s:pr Do/S DP 値	2st:pr Do/S DP 値
		2s	2st	2s	2st		
/ow/	go	1	1			1/ 0	1/ 0
/voc/	see						
	sigh			1			
	say	1				1/ 1	0/ 0
	total						
/t/	put					0/ 1	0/ 0
	lament			1			
/d/	feed				1	0/ 0	0/ 1
/k/	ask			1			
	infect	1					
	look			1			
	strike						
	shake				1		
	speak	2	1			3/ 3	1/ 1
	think			1			
	Total	3	1	3	1	50.0	-
/l/	dwelt i	1		1	1		
	smile		1				
	tell					1/ 1	1/ 1
	total						
/m/	blame			1		0/ 1	0/ 0
/n/	come						
	mean			1			
	learn					0/ 1	0/ 1
	run			1		-	-
	Total			2	1		
/p/	weep			1		0/ 1	0/ 0
/f/	laugh					0/ 0	0/ 0
/v/	have			1		0/ 1	0/ 0
/z/	please			1			
	muse			1			
	use	1				0/ 2	1/ 0
	total						
/r/	appear			1			
	garter						
	quiver	1					
	wear	1		1			
	Total	2		2		0/ 2	2/ 0
	Total	6	7	13	6	27.8%	50.0%

### 3.2.2 How の場合

Table 3.2.2

		do-type		S-type		2s:pr Do/S DP 値	2st:pr Do/S DP 値
		2s	2st	2s	2st		
/ow/	go			1			
	know	1		4			
	Total	1		5		0/ 5 0	1/ 0 -
/voc/	do			11	8		
	say			8			
	lay			1			
	gree			1		0/21 0	0/ 8 0
	Total			21	8		
/k/	like	1		4	1	0/ 4	1/ 1
/t/	quote			1		0/ 1	0/ 0
/d/	find		1				
	understand		1			0/ 0	2/ 0
	Total		2			-	-
/l/	dall						
	feel			1	1	0/ 1	0/ 1
	Total			1	1	-	-
/m/	come						
	esteem				1	0/ 0	0/ 1
	Total				1	-	-
/n/	mean	1		1	1	1/ 1	0/ 1
/r/	answer			2			
	fare			1			
	bear	1				1/ 3	0/ 0
	Total	1		3		25.0	-
/p/	scape					-	-
/v/	have				1	0/ 1	0/ 1
	prove			1		-	-
	Total	2	4	37	13	0.05	23.5

Table 3.1~3.2.2 の数値から明らかなように、wh-question における DP 値は、wh の種類、そして、それらの主語の 2 人称・現在 you と thou の場合で若干異なる。

前回の調査でも得られた結果であったが、例えば同じ wh-question でも O-question では DP 値25.0%、A-question の when, where, why では DP 値35.7%とかなり両者の DP 値に開きがある。さらに同じ A-question の中でも when, where, why と how では35.7%対10.7%と、他の疑問詞に比べ how では do 迂言化にかなり抑制が働いていることを示している。

しかし主語の 2 人称・現在 you と thou の各数値に注目するならば、O-question でこそ you が thou より上回るものの、その他の wh 疑問文では全て thou の方が you に比べ高い DP 値を示している。すなわち、2 人称 thou とその動詞の屈折形-(e)st は do 迂言化拡大に何らかの影響を与えている、とする Dieter Stein<sup>(13)</sup> 説の正当性を、ここではある程度裏づける結果となっている。これらの状況は次の Table 3.3 および Figure 3.3 を見れば、数値 0 の項目を他はほとんどすべて thou の方が高い値を示していることから明らかとなろう。

### 3.3 各 Wh-question における DP 値の比較

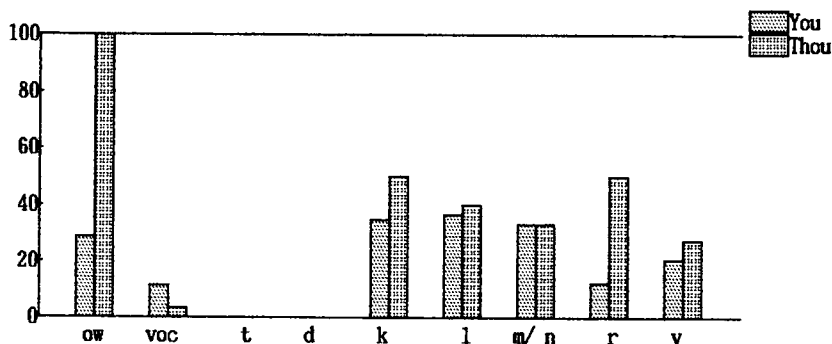
Table 3. 3

	OQ (what) you      thou		AQ 1 (when) you      thou		AQ 2 (how) you      thou		Wh-Q/Total you      thou	
/ow/ DP 値	1/ 0	2/ 0	1/ 0	1/ 0	0/ 5	1/ 0	2/ 5	4/ 0
	-	-	-	-	0	-	28.6	100
/voc/ DP 値	5/24	1/19	1/ 1	0/ 0	0/21	0/ 8	6/46	1/27
	17.2	5.0	-	-	-	0	11.5	3.6
/t/ DP 値	0/ 0	0/ 0	0/ 1	0/ 0	0/ 4	1/ 1	0/ 5	1/ 1
	-	-	-	-	0	-	0	-
/d/ DP 値	1/ 0	0/ 0	0/ 0	0/ 1	0/ 1	0/ 0	1/ 1	0/ 1
	-	-	-	-	-	-	-	-
/k/ DP 値	5/12	1/ 3	3/ 3	1/ 1	0/ 0	2/ 0	8/15	4/ 4
	29.4	-	50.0	-	-	-	34.8	50.0
/l/ DP 値	3/ 5	1/ 1	1/ 1	1/ 1	0/ 1	0/ 1	4/ 7	2/ 3
	37.5	-	-	-	-	-	36.4	40.0
/m/ DP 値	1/ 0	1/ 0	0/ 1	0/ 0	0/ 0	0/ 1	1/ 1	1/ 1
	-	-	-	-	-	-	-	-
/n/ DP 値	2/ 4	2/ 2	0/ 1	0/ 1	1/ 1	0/ 1	3/ 6	2/ 4
	33.3	-	-	-	-	-	33.3	33.3
/r/ DP 値	0/ 2	0/ 2	0/ 2	2/ 0	1/ 3	0/ 0	1/ 7	2/ 2
	-	-	-	-	-	-	12.5	50.0
/v/ DP 値	0/ 5	0/ 5	0/ 1	0/ 0	0/ 1	0/ 1	0/ 7	0/ 6
	0	0	-	-	-	-	0	0
Total DP 値	18/52	8/32	6/11	5/ 4	2/37	4/13	26/100	17/49
	25.7	20.0	35.3	55.6	5.1	23.5	20.6	25.8

(表内の数値 \* / \* は Do / S を表す。)



Figure 3.3 Wh-Qにおける各stem-ending の分布状況



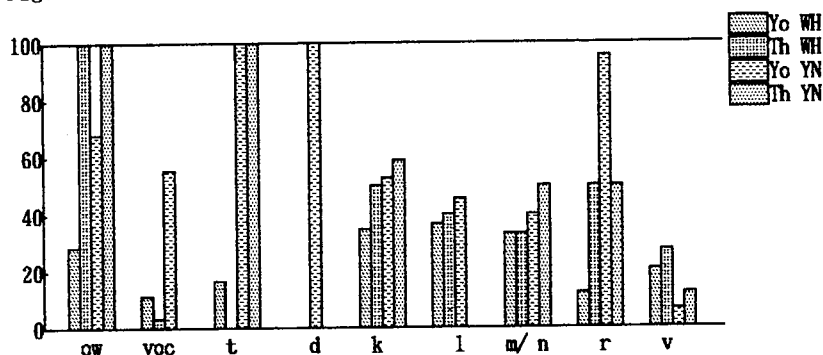
## 3.4 wh-Q と yes-no Q における各 stem-ending の分布状況比較

ここで、これらの wh-question のデータをまとめたものと、yes-no question のデータを表とグラフで再度比較することにより、どのような関係が見られるかを考察してみる。

Table 3.4a

	Wh-Q/Total		Yes-NO Q		Wh-Q + Yes-No	
	you	thou	you	thou	you	thou
/ow/	2/ 5	4/ 0	19/ 9	6/ 0	21/14	10/ 0
DP 値	28.6	100	67.9	100	60.0	100
/voc/	6/46	1/27	10/ 8	0/ 7	16/54	1/34
DP 値	11.5	3.6	55.6	0	22.9	2.9
/t/	0/ 5	1/ 1	8/ 0	6/ 0	6/ 5	7/ 1
DP 値	16.7	-	100	100	54.5	87.5
/d/	1/ 1	0/ 1	4/ 0	1/ 0	5/ 1	1/ 1
DP 値	-	-	100	-	83.3	--
/k/	8/15	4/ 4	19/16	10/7	27/31	14/11
DP 値	34.8	50.0	54.3	58.8	46.5	56.0
/l/	4/ 7	2/ 3	4/ 6	1/1	8/13	3/ 4
DP 値	36.4	40.0	40.0	-	38.1	42.9
/m/	1/ 1	1/ 1	1/ 2	0/0	2/ 3	1/ 1
DP 値	-	-	-	-	40.0	--
/n/	3/ 6	2/ 4	1/ 1	0/1	4/ 7	2/ 5
DP 値	33.3	33.3	-	-	36.4	28.6
/r/	1/ 7	2/ 2	16/ 1	2/2	17/ 8	4/ 4
DP 値	12.5	50.0	94.1	-	68.0	50.0
/v/	0/ 7	0/ 6	1/14	1/7	1/21	1/13
DP 値	0	0	6.7	12.5	4.5	7.1
Total	26/100	17/49	81/57	27/25	106/157	44/74
DP 値	20.6	25.8	58.7	51.9	40.3	37.3

Figure 3.4a



このように wh-Q の平均値のデータと、yes-no Q のデータを表とグラフで比較してみると、次のことがわかる。

1) /ow/, /voc/, /r/, /t/ の 4 項目では wh-Q の you に比べ yes-no Q のそれが圧倒的に高い DP 値を示す。

2) /k/, /l/, /m, n/ でも、1) の 4 項目ほどではないが、yes-no Q の you が wh-Q のそれより高い DP 値を示す。

3) thou に関しては /k/, /l/, /m, n/ で 2) と同様のことがいえる。

4) /ow/, /r/ では wh-Q の thou も yes-no Q のそれもほぼ同じ値でありどちらが優勢とはいえない。

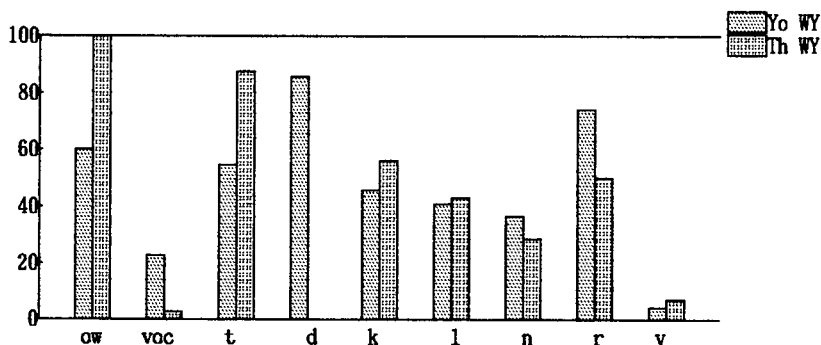
5) /v/ については you, thou とともに、上の 1), 2), 3) とは逆転現象が起きている。即ち、yes-no Q の you が wh-Q のそれより低い DP 値を示している。

以上のことから、全体的に you も thou も、wh-Q よりも yes-no Q において、DP 値が高く、また部分的 (k/, /l/, /m, n/) には you より thou の方が DP 値が高いといえる。しかし、あくまで部分的であって、全体ではデータ不足もあり、何とも言えない。

さらに、wh-Q と yes-no Q の合計値による you, thou の DP 値比較を試みるならば、次のグラフ 3.4 b のようになる。即ち /ow/, /t/, /k/, /l/, /v/ の 5 つの項目での thou の優位は変わらないが、/voc/, /d/, /n/, /r/ の 4 項

目では今度は you の方が優位になり、wh-Q と yes-no Q のデータを合わせ  
る前より結果がさらに曖昧なものとなった。

Figure 3.4b Wh, Yes-no の合計値による you, thou の DP 値比較



## まとめ

D. Stein の stem ending 別による 2 人称 you と thou の DP 値比較による研究方法を応用しながら、データとその分析を試みたが、これまでの結果を振り返ってみるならば、次のとおりである。

1) stem ending/ow/ の動詞 6 種類の場合を再度振り返るならば、動詞 know についてのみ、2 人称単数・現在 you の do, S 両タイプで各々 18 例、9 例 (DP 値 : 66.7%)、同 thou で do タイプ 6 例というデータが得られたが、その他の動詞については客観的な傾向が得られるほどの頻度で do 迂言化が起っていない。

2) 同様に /voc/ グループの 14 種類中では see, say のみ、/k/ 13 種類の場合は、think についてのみ、/r/ 8 種類の場合は、hear, remember のみ、と同じ stem ending グループの中でも、ある特定の動詞とのみ顕著な do 迂言化が起っている。

3) 逆に /l/ 7 種類の場合は have と似て、call のみ do 対 S の比率 1 : 6, というように S タイプが依然優勢なものも見られた。

4) stem ending/v/ をもつ動詞については believe, deserve, give, leave,

live, perceive, serve と 7 種類の動詞が用いられながら、それらの個々の頻度は極めて低く、2 人称・現在 you では leave の do タイプ 1 例、同じく thou で live の do タイプ 1 例のみである。

5) さらに have については、はじめに述べたように、今回の yes-no-question だけでなく、wh-question においても do タイプは 1 例も見られない。S タイプについては yes-no question 全体で 39 例もありながらである。/v/ という環境が Stein のいう ‘undesired...consonant cluster’<sup>(16)</sup> に属するかどうかは、ここでの即答はデータ不足もあり避けねばならないが、Stein 自身はその分析において、/v/ の環境を設定していないように思われる。ちなみに、今回の yes-no と wh の両方のデータから /v/ を排除した数値と /v/ を含む数値を比較すると次のようである。

Table 4

	/v/ を除く		/v/ を含む	
	you	thou	you	thou
① OQ	25.7%	20.0%	38.3%	29.6%
② AQ1	37.5%	55.6%	35.3%	55.6%
③ AQ2	5.3%	25.0%	5.1%	23.5%
④ Wh total	21.8%	28.3%	20.8%	27.3%
⑤ Yes-no Q	66.7%	54.8%	60.4%	48.9%

Table 4 の①～⑤の数値の示すとおり、/v/ グループを含む数値と大差はない。即ち、②AQ1 (when, where, why) と③AQ2 (how) においては thou の DP 値が you のそれを大きく上回っており、また④のように OQ、AQ1、AQ2 の平均値でも thou の優位は変わらない。こうなると Stein の指摘するように、DP 値<sup>(17)</sup>において勝る thou から do 迂言化が始まったといえなくはない。しかし①の OQ だけの場合と⑤ yes-no question の場合においては、かなりの stem ending において thou より you が高い DP 値を示しており、全体で Stein 説が完全に立証されたとはいえないように思われる。

問題は、このように you と thou の数値の異なる wh-questions のデータをひとまとめにして yes-no question と比較するのはどうか、ということ

ある。この点で Stein の結論の出し方にやや疑問が残る。stem ending/v/ の他の例は、すべて do タイプと共起しているにもかかわらず、have だけが表 3.2.2 に見られたように S タイプのみ、というのはいかなる理由によるものであろうか。

Visser のように<sup>(18)</sup>完了形 have+S+p.p.~? の have に引きずられて do 迂言化 (do+S+V~?) が遅れた、というのもひとつの有力な考え方であろう。しかし have に限らず、他の動詞、例えば say のように 2 人称単数・現在の場合 S タイプにしか起こらない例も見られた。新たな原因究明が必要であろう。

最後に Stein のように<sup>(19)</sup>、do の使用頻度が最も高い下位範疇 (sub-category) あるいは文において do 迂言化 (do periphrasis) を増大させた理由があるとするならば、少なくとも yes-no question というコンテキストにおいては、有標的 (marked) な “V (-st)+thou~?” よりも無標的 (un-marked) な “V+you~?” の方が do の例として多く見られることから、do 迂言化が 2 人称 thou から you へと拡大していった、と結論づけるのは早急であるように思われる。

さらに原点に返って、Ellegård のグラフに従うならば、迂言化が最も早く進んだのは、肯定疑問文よりも否定疑問文であることを思い出さねばならない。ここで新たな課題として、「否定」の要素が迂言化に与える原因を追求する必要があるように思われる。これについては、別の機会に調査し、真相を追求していきたい。

## 註

- (1) Franz, §600 Franz は Yes-no question を general question, wh-question を special question と、各々呼んでいる。
- (2) 拙論「シェイクスピアの作品群における迂言的 do の歴史的研究 II」学習院女子短期大学紀要第30号 (1992)
- (3) Ellegård, A. pp. 189-
- (4) Stein, D. *The Semantics of Syntactic Change* (1990) 参照

- (5) *ibid.* p. 157
- (6) *ibid.* p. 164
- (7) Salmon, V. (1965)
- (8) Stein, D. p. 146
- (9) Spevack, M. (1973)
- (10) *The Two Noble Kinsmen*, については J. Fletcher との合作、*Sir Thomas More* については著者不明説 (*The Riverside Shakespeare*, p. 1639, 1683 参照) により、また Sonnets その他は詩 (韻文) という理由で各々調査対象からはずす。
- (11) Stein, D. p. 151-
- (12) *ibid.* p. 150 “degree of periphrasis frequency の略
- (13) *ibid.* p. 151-
- (14) 拙論 学習院女子短期大学紀要第30号 (1992)
- (15) Stein, D. pp. 154-165
- (16) *ibid.* p. 157
- (17) *ibid.* pp. 162-164
- (18) Visser III §1466
- (19) Stein, D. p. 144
- (20) Ellegård, A. p. 162

# **FS: Frequency Survey of do-type in Yes-no Questions**

## ***did***

/ow/: 1 PER 4.06. 74 (go)

/voc/: 9 (say: 1, see: 8)

ADO 2.01.211 (see)/V 5.01.41 (see)/TN 3.02.8 (see)/WT 5.02.39 (see)/2H4 1.02.80 (say)/TIM 3.06.109 (see)/TIM 3.06.113 (see)/TIM 3.06.115 (see)/OTH 4.01.173 (see)/

Neg: 4 ADO 5.01.204 (say)/MM 5.01.260 (say)/TN 2.03.16 (see)/TN 2.05.127 (say)

/t/: 3

MM 5.01.288 (set)/TN 5.01.312(write)/HAM 5.01.91 (cost)

/d/: 2 (N: 2, S: 3, T: 1)

WIV 4.04.3 (send)/AWW 2.04.33 (find)

Neg: TGV 4.04.36(not bid)/WIV 1.01.203 (not lend)

Tag: WIV 2.01.169 (did you not?=heard)

/k/: 4 (N: 1)

WIV 1.01.151 (pick)/WIV 5.05.208 (take)/ADO 1.01.24 (break)/ADO  
2.01.195 (think)

Neg: 1 ADO 2.01.135 (never make)

/m/: 1 PER 4.05.4 (dream)

Neg: 2H4 2.01.93 (not come)

/n/: 1 TRO 1.02.147 (run)

Neg: TRO 2.01.5 (not run)

/r/: 6

WIV 2.01.68(hear)/LLL 1.01.284 (hear)/AYL 3.02.406 (cure)/AYL  
4.03.4(hear)/ CYM 2.01.3(hear)/PER 4.05.1 (hear)

/l/: 2 (N: 3)

1H4 1.02.51 (call)/AYL 5.02.25 (tell)

Neg: WIV 5.05.194 (not tell)/TN 3.04.92 (not tell)/MM 5.01.339 (not  
tell)

/v/: 5

TGV 2.02.156 (perceive)/WIV 1.0158 (leave)/MM 3.01.224 (leave)/  
AWW 5.03.241 (love)/OTH 4.01.171 (perceive)

/s/ LR 4.03.9 (pierce)

/z/ LLL 4.02.150 (please)

/d3/ WIV 3.05.68 (change)

/tʃ/ WIV 3.05.81 (search)

/ŋ/ Neg. TIM 1.02.92 (not belong)

### ***didst***

/ow/: 0

/voc/: 3 (N: 5)

TGV 4.04.39 (see)/SHR 4.01.179 (see)/TN 5.01.197 (see)  
 Neg: TMP 3.02.74 (not say)/SHR 3.02.76(not say)/SHR 5.01.52  
 (never see)/1H4 2.04.120 (never see)/OTH 2.01.253 (not see)  
 /t/: 1  
     ADO 1.01.162 (note)  
 /d/: 0 (S: 1)  
     1H4 5.04.145) Didst thou? [Didst=killed and saw]  
 /k/: 0 (N: 1)  
     N OTH 2.01.255(not mark)  
 /r/: 4 (N: 2)  
     TGV 4.04.54 (offer)/AYL 3.02.163 (hear)/AYL 3.02.172 (hear)/2H4  
     2.04.305 (hear)  
     Neg: ADO 3.03.128 (not hear)/2H4 2.01.98 (not desire)  
 /s/: 0 (N: 1)  
     Neg: 2H4 2.01.101 (not kiss)  
 /l/: 0 (N: 1)  
     Neg: ROM 3.01.27 (not fall)  
 /v/: 2  
     HAM 3.02.287 (perceive)/ LR 3.04.49 (give)

**do:** 105

/ow/: 19  
     HAM 2.02.337 (grow)/TGV 2.01.14 (know)/WIV 2.02.268 (know)/  
     ERR 3.02.73 (know)/MV 2.02.69 (know)/AWW 4.03.184 (know)/  
     AWW 5.03.255 (know)/TN 3.04.99 (know)/TN 3.04.259 (know)/1H4  
     3.03.135 (owe)/TRO 1.02.63 (know)/TRO 1.02.252 (know)/COR 2.01.21  
     (know)/HAM 2.02.173 (know)/LR 1.01.24 (know)/OTH 3.04.1 (know)/  
     PER 2.01.96 (know)/PER 4.02.104 (know)/PER 4.06.79 (know)  
     Neg: 4  
     MV 2.02.73 (not know)/AYL 3.02.249 (not know)/AWW 2.05.51 (not  
     know)/TRO 3.01.1 (not follow)



/voc/:10

HAM 2.02.360 (carry)/WIV 3.01.44 (study)/ADO 1.01.183 (play)/AYL  
4.03.66 (pity)/AWW 2.03.86 (deny)/1H4 2.04.319 (see)/TRO 1.02.206  
(see)/HAM 3.02.376 (see)/LR 1.02.149 (busy)/LR 1.04. 84 (bandy)

Neg:3

LLL 5.02.701 (not see)/MV 3.01.66 (not die)/TN 3.04.109 (not see)

/t/: 8

TMP 2.02.57 (put)/MM 4.03.49 (jest)/LLL 3.01.24 (note)/LLL 3.01.25  
(note)/1H4 1.02.178 (set)/ROM 1.01.44 (bite)/ROM 1.01.46 (bite)/  
ROM 4.05.119 (note)

Neg: 2

LLL 5.01.82 (not educate)/AYL 3.02.55 (not sweat)?

/d/: 5

WIV 1.01.209 (understand)/ WIV 1.04.46 (intend)/1H4 2.04.319  
(behold)/2H4 4.03.11 (yield)/HAM 2.02.334 (hold)/

Neg: 3

MV 3.01.64 (not bleed)/MV 3.01.65 (not laugh)/2H4 1.02. 74 (not  
need)

/k/: 23 (think: 13, speak: 2, like: 2, look: 2, mark: 2, mark, take)

WIV 2.01.172 (think)/WIV 5.05.146 (think)/MM 1.02.34 (speak)/ADO  
2.01.121 (think)/ADO 3.04.41 (speak)/AWW 3.06.6 (think)/AWW  
3.06.94 (think)/TN 1.03.64 (think)/TN 2.03.88 (make)/1H4 3.03.54  
(think)/2H4 2.04.177 (think)/2H4 3.02.132 (like)/2H4 4.03.32  
(think)/H5 4.08.12 (think)/H5 5.02.107 (like)/H8 5.03.1 (take)/H8  
5.03.10 (look)/MAC 5.01.41 (mark)/HAM 3.02.111 (mark)/HAM  
3.02.116 (think)/HAM 3.02.369 (think)/MV 2.02.68 (look)/AYL  
3.04.21 (think)

/k/ Neg. TRO 2.03 144 (not think)

/r/: 16 (hear: 13, remember: 3)

TMP 4.01.201 (hear)/MM 2.01.88 (hear)/MM 5.01.330 (remember)/  
MV 3.01.42 (hear)/AYL 3.02.297 (hear)/SHR 4.01.98 (hear)/SHR  
5.01.26 (hear)/SHR 5.01.133 (hear)/AWW 2.03.184 (hear)/TN 5.01.374

(remember)/2H4 3.02.192 (remember)/H8 5.03.28 (hear)/TRO 5.03.93  
 (hear)/TRO 5.03.93 (hear)/TRO 5.03.93 (hear)/COR 5.02.98 (hear)/  
 OTH 1.03.376 (hear)  
 Neg: 5  
 TMP 1.01.13 (not hear)/ MV 1.02.112 (not remember)/TN 1.05.39  
 (not hear)/H5 2.03. 40 (not remember)/TRO 1.02.224 (not hear)  
 /l/: 4  
 MM 4.02.21 (call)/COR 4.05.46 (meddle)/ROM 1.01.52 (quarrel)/LR  
 1.01.16 (smell)  
 /l/N WIV 1.04.115 (not tell)  
 /m/ TN 3.04.64 (come)  
 /n/ 2H4 5.01.23 (mean)  
 /v/: 3  
 WIV 3.01.115 (perceive)/ADO 4.02.16 (serve)/2H6 4.08.21 (believe)  
 /v/N: 3  
 TGV 2.01.153 (perceive)/ADO 5.04.74 (not love)/ADO 5.04.77 (not  
 love)  
 /d3/: 1 TGV 2.04.23 (change)  
 /p/: 1 WIV 3.05.140 (sleep)  
 /f/: 2 OTH 4.01.118 (triumph)/OTH 4.01.118 (triumph)  
 /son/: 1 ADO 1.01.166 (question)  
 /ʃ/: 1 AYL 3.03.23 (wish)  
 /z/: 1 2H4 2.02.138 (use)  
 /s/: 1 TRO 5.01.27 (curse)

### ***does***

/voc/: 2 WIV 2.01.179 (lie)/TN 3.04.94(does)  
 Neg: 1 TRO 1.02.125  
 Tag: 1 MN 1.03.100 (does't not)  
 /t/: 1 MM 3.02.79 (paint)  
 Neg: 1 TN 2.03.9 (not consist)

/d/ Neg: 1 WIV 1.04.29 (not hold)  
/k/: 2 WIV 4.02. 30(talk)/TN 2.05.195(work)  
Neg: 1 TN 2.05.67(not take)  
/r/ Neg: 1 WIV 1.04.20(not wear)  
/n/: 1 MM 2.01.230 (mean)

**dost.** 42 例

/ow/: 4

TGV 2.01.42 (know)/TGV 2.01.46 (know)/LR 1.04.26 (know)/LR  
1.04.137 (know)/

Neg: 2 ERR 2.02.40 (not know)/2H4 2.01.151 (not know)

/voc/LR 4.03.136 (squiny)

/t/: 5

MM 2.01.74 (detest)/AWW 5.02.48 (put)/TIM 4.03.307 (hate)/OTH  
2.03.150 (prate)/

Neg: 2 ADO 4.02.74 (not suspect)/ADO 4.02.74 (not suspect)

/d/: 1 H5 5.02.192 (understand)

/k/: 11 (think: 6, make: 2, speak, lack, like)

ADO 5.04.102 (think)/AYL 3.02.194 (think)/AWW 2.03.250 (make)/  
TN 2.03.114 (think)/1H4 2.04.433 (speak)/1H4 3.03.150 (think)/TRO  
2.01.22 (think)/ROM 3.01.46 (make)/HAM 5.01.197 (think)/TMP  
3.02.108 (like)/WT 4.03.77 (lack)

/l/: 1 LR 1.04.148 (call)

/r/: 11

TGV 1.01.94 (hear)/ADO 2.03.84 (hear)/ADO 5.01.126 (wear)/1H4  
2.04.209 (hear)/1H4 2.04.491 (hear)/1H4 3.03.164 (hear)/2H4 2.04.79  
(hear)/2H4 2.04.82 (hear)/2H4 3.02.178 (roar)/HAM 2.02.537 (hear)/  
OTH 3.01. 21 (hear)

Neg: 1 1H4 2.04. 78 (not hear)

/n/: 1 TGV 1.01.94 (gan'st)

/v/: 1 TN 3.01.1 (live)

/z/: 2 LLL 5.02.678 (infamelize)/2H6 4.02.102 (use)

/g/: 1 TIM 2.02.51(dialogue)

**doth:** 22 例

/ow/: 0

Neg: 1 2H4 2.02.5 (not show)

Tag: 1 MND 4.02.6 (not goes)

/voc/: 3

MM 2.01.153 (see)/AYL 1.03.31 (ensue)/2H4 5.01.29(stay)/

/t/: 1 AYL 3.03.3 (content)

/d/: 2 2H4 2.02.146 (feed)/2H4 3.02.205 (hold)

Neg: 1 TN 1.05.73 (not mend)

/k/: 2 MM 2.01.149 (mark)/LLL 3.01.78 (take)

/l/: 2 1H4 5.01.136 (feel)/TMP 2.02.97 (call)

Neg: 1 1H4 2.04.370 (not thrill)

/m/ Neg: 1 ADO 3.04.69 (not become)

/n/: 1 MND 3.01.51 (shine)

Neg: 1 ROM 2.04.206 (not begin)

/v/: 1 LLL 5.02.524 (serve)

Neg: 1 AYL 1.03.36 (not deserve)

/r/: 1 1H4 5.01.137 (hear)

Neg: 1 ADO 2.03.238 (not alter)

### FS of S-type in Yes-no Questions

1. /ow/

*Know:* 10 (Neg: 1)

ADO 4.01.15/ADO 4.01.17/AYL 1.01.40/AYL 1.01.42/AWW 4.03.313/

H5 4.08.6/H5 4.08.7/TRO 3.01.19/COR 4.03.5/TIM 3.06.107

Neg: 2H4 2.04.190

*Knowst:* 0 (Neg: 1, TGV 2.01.46)

*Knows:* 0 (cf. Neg: 1, AWW 4.01.8) *Knew:* 0 *Knew'st:* 0

*Go:* 0, *Goes:* 0, *Goest:* 0, *Go'st:* 0, *Goth:* 0

*Went*: 0 (Neg: 1, WIV 5.01.13)→/t/

*Went'st*: 0

*Grow*: 0 -s, -st, -th, : 0, grew: 各例 0

*Follow*: 0 *Follows*: 1 COR 2.01.63

*Show*: 0 -s, -st, -th, -ed, -'d, -'dst: 各例 0

*Owe*: 0 -s, -st, -th, - -ed, -'d, -'dst: 各例 0

## 2. /voc/

*Say*: 7 [you:6, I: 1]

MM 5.01.274/1H4 2.03.14/1H4 2.03.14/TRO 1.01.79/TRO 4.02.51/  
COR 4.03.42/HAM 4.05.28

*Sayest*: 1 CYM 2.01.25

*Say'st*: 6 [thou]

WIV 2.02 138/TIM 4.02.33/H5 4.04.22/2H6 2.01.107/HAM 1.05.150/  
LR 1.04.63

*Said*: 6 [you: 1, I: 5]→/d/

TMP 2.01.82/WIV 1.03.11/WIV 2.03.89/WIV 2.03.95/2H4 3.02.212

Neg: 1, PER 2.01.23

*Play, Stay, Die, Lie (Lay), Deny, Study, Pity, Carry*: 各 0

*See*: [you: 2] WT 5.02.130/COR 5.04.1

*Seest*: 0 (Neg: 3 ADO 3.03.124/WT 4.04.731/ANT 2.07.91)

*Sees, Saw, Sawst, Sawth*: 0

*Ensue*: 0

*Do*: 4

TMP 3.02.76/AWW 2.03.251/2H4 2.04.108/H5 5.02.128

## 3. /k/

*Think*: 10

MM 3.02.106/MM 4.03.49/ADO 2.03.172/ADO 4.01.328/WT 4.04.266/

WT 4.04.288/WT 4.04.771/COR 2.03.25/LR 1.02.89/CYM 1.04.170

*Thinks*: 0

*Think'st*: 5

WIV 2.02.15/SHR 1.01.123/WT 4.04.734/TIM 3.02.33/OTH 1.03.303

*Thinkth*: 0

*Thought*: 1 ADO 3.03.153

*Speak*: 3

WIV 5.02.27/ADO 1.01.182/LLL 1.02.24/

*Speak (e)'st*: 1 AYL 5.02.69

*Speaks*: 0

*Spake*: 3

ERR 2.01.50/SHR 1.02.39/LR 1.02.154/

*Spoke*: 0

*Take*: 1, HAM 4.02.14

*Take'st*, *Takes*, *Taketh*, *Took*: 各例 0

*Like*: 0 cf. (Wh+~: 5)

*Lack*: 0

*Look*: 1, ADO 2.02.29

*Looks*: 0 (Wh+~: 1), *Looked*: 0 (Wh+~: 1)

*Mark*: 0, *Pick*: 0, *Pluck*: 0

*Talk*: 2 cf. (Wh+~: 2)

MV 2.02.48/MV 2.02.50

*Talkest*: 1, TN 4.02.26 cf. (Wh+~: 1)

*Talks*: 0 (Wh+~: 1)

*Talk'st*: 0

*Work*: 0, *Break*: 0,

*Make*: 0 cf.(Wh+~: 3), *Makes*: 0 cf.(Wh+~: 5)

*Made*: 0 cf. (Wh+~: 1)→/d/

#### 4. /t/

16種 : 0 (該当例なし)

Put, Set, Write, Sweat, Educate, Cost, Jest, Note, Bite, Paint, Consist,

Detest, Suspect, Hate, Prate, Content: 0

5. /d/

Said: 6→/voc/Said, Made: 0, Had: 1→/v/Had, Heard: 1→/r/Heard,

Did: 3 MM 4.03.171/MM 5.01.330/1H4 3.03.140

その他15種: 0 (該当例なし)

Bid, Understand, Intend, Lend, Bleed, Send, Need, Find, Behold, Yield,  
Hold, Sold, Told, Mend, Feed

6. /l/

*Call*: 6 cf. (Wh+~: 5 いずれも what)

WIV 2.01.90/ERR 2.02.35/AYL 2.05.18/1H4 2.04.150/2H4 2.04.102/  
2H4 3.02.74

*Calls*: 1→/z/1 AYL 1.01.88

*Call'st*: 1 1 LLL 3.01.30

*Called*: 0 cf. (Wh+~: 1 AWW 1.01.24 *How*)

*Tell*: 0 cf. (Wh+~: 2)

*Fall, Feel, Quarrel, Smell, Thrill*: 各 0

7. /m/

*Come*: 2 SHR 1.02.42/H5 3.06.1 cf. (Wh+~: 2)

*Comes*: 2 SHR 1.01.251/2H4 2.01.176 cf. (Wh+~: 5)

*Com'st*: 1 HAM 2.02.423

*Comest*: 0, *Cometh*: 0, *Came*: 0, *Came'st*: 0

8. /n/

*Begin*: 1 AYL 1.01.85

*Begins, -st, -th, Began*: 各 0

*Mean*: 0 *Mean'st*: 0 *Meanst*: 0 *Meanth*: 0

*Means*: 1/ADO 3.02.88

*Run*: 0, *Runs*: 0, *Run'st*: 0 cf. (Wh+~: 1, ERR 3.02.71 *where*)

*Shine*: 0

9. /r/

*Hear*: 0, *Hears*: 0

*Hear'st*: 2, SHR 4.04.98/1H4 2.04.80

*Hearth*: 0

*Heard*: 1/WIV 3.03.201→/d/

*Alter, Cure, Desire, Offer, Remember*: 各 0

*Wear*: 0 (cf. Wh+~: 1, H5 5.01.1)

*Wear'st*: 0 (cf. Wh+~: 1, H5 4.07.120)

10. /s/ *Pierce, Kiss, Curse*: 該当例なし

11. /z/ *Infamelize, Use*: 該当例なし

*Please*: 0 (cf. Wh+~: 1, ADO 2.03.35 *when*)

12. /f/

*Laugh*: 0 (cf. Wh+~: 1, TN 5.01.375 *why*)

*Triumph*: 0

13. /son/ *Question, Meddle*: 該当例 0

14. /dg/ *Change*: 1, AYL 3.02.182

15. /tʃ/ *Search*: 0

16. /v/

*Believe, Deserve, Leave, Live, Love, Perceive*: 各該当例 0

*Serve*: 0 (cf. Wh+~: 1, H5 4.01.93 *what*)

*Give*: 1/1H4 2.04.238

*Gav'st*: 1/TGV 1.01.94

*Have*: 13

TMP 1.01.39/TMP 2.02.57/TGV 2.01.89/WIV 4.02.114/AYL 4.02.5

TN 1.05.228/TN 1.05.231/TRO 1.02.251/TRO 1.02.252/COR 4.03.42

HAM 2.02.182/HAM 3.02.334/LR 1.04. 91

Tag: 2, MM 2.01.130/T ADO 1.01.194

Neg: 2, 2H4 2.04.159/2H4 2.04.175

cf. (Wh+~: TMP 2.02.24 *what*/WIV 1.01.122 *what*/LLL 5.02.709

*what*/AWW 3.02.17 *what*/TN 2.05.82 *what*/WT 3.03.69 *what*/TIM

1.02.11 *why*)



*Has*: 4

WIV 3.02.30/WT 4.04.203/COR 4.05.11/PER 4/02.46

*Hast*: 7 (N: 1)

TMP 2.02.133/AYL 3.02.21/CYM 3.05.123/WIV 2.01.212/WIV  
4.01.69/1H4 2.01.31/ 2H6 4.02.102

Neg: 1H4 2.01.27

cf. (Wh+~: 5/WT 4.04.259 *what*/OTH 2.01.139 *what*/2H4 3.02.180  
*what*/TIM 3.01.14 *what*)

*Hath*: 4 (N: 5)

WIV 3.02.30/WIV 3.02.31/ADO 1.02.17/AWW 4.03.60/

Neg: WT 4.04.732/ADO 1.01.197/ADO 2.01.323/MV 3.01.59/MV  
3.01.59

*Had*: 1, LR 1.02.56

cf. (Wh+~: 2/WIV 3.02.18 *where* /HAM 2.02.405 *what*)

*Hadst*: 1, TN 2.03.25

cf. (Wh+~: 1/1H4 2.04.318 *what*)

## 参考文献

Abbott, E.A. 1884. *A Shakespearian Grammar*. (reprint) 1954. Senjo.

Araki, K. 1980. 「シェイクスピアの発音と文法」 (中尾祐治共著) 荒竹出版

——1984. 「英語史III A」 東京: 大修館

Denison, D. 1993. *English Historical Syntax*. (Longman) London & New York

Ellegård, A. 1953. *The Auxiliary Do*. Stockholm: Almqvist & Wilsell

Franz, W. 1934. *Die Sprache Shakespeares in Vers und Prosa*. Halle: Niemeyer.

Jespersen, O. 1909-49. *Modern English Grammar*. 7vols. London & Copenhagen:  
Allen & Unwin, and Munksgaard.

——1966. *Negation in English and other Languages*. Copenhagen Munksgaard.

Mustanoja, T.F. 1960. *A Middle English Syntax I*. Helsinki: Société Néophilologique.

Nakao, T. 1972. 「英語史II」 東京: 大修館

Onions, C.T. 1975. *A Shakespeare Glossary* Oxford Univ. Press. (紀伊国屋書店)

*The Oxford English Dictionary. (OED)*

Visser, F.Th. 1963-73 *An Historical Syntax of the English Language* 4vols.

Leiden: Brill.

G. Evans, Blakemore 1974. *The Riverside Shakespeare* 2vols. Boston: Houghton Mifflin

Salmon, V. 1965. *Sentence Structures in Colloquial Shakespearean English*.

(Transaction of The Philological Society)

Stein, D. 1990. *The Semantics of Syntactic Change; Aspects of the Evolution of do in English*. Mouton de Gruyter, Berlin·New York

Spevack, M. 1973. *The Harvard Concordance To Shakespeare*. Georg Olms, Hildesheim.

Furusho, M. 1992. *A Historical Study of Periphrastic do in The Works of Shakespeare II: with Special Reference to The Difference of Distribution among Wh-Interrogative Sentences* 「シェイクスピアの作品群における迂言的 do の歴史的研究 II」 (学習院女子短期大学紀要第30号)

(ふるしょう まこと 本学助教授・人文学科英語研究室)